

令和 3 年 10 月 11 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04464

研究課題名（和文）地域包括ケアを担う看護職者育成のための住民と協働したシナリオ学習教材の開発

研究課題名（英文）Development of scenario-based learning materials obtained from collaboration with residents in order to train for nursing personnel who takes on the role of community-based integrated care

研究代表者

石丸 美奈（Ishimaru, Mina）

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：70326114

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,380,000円

研究成果の概要（和文）：地域包括ケアシステムの構築に向けて、当事者による社会資源創出を支援する看護実践能力に着目し、看護学生を対象としたシナリオ学習教材を開発した。必要と考える看護実践能力を明らかにした上で、看護学教育モデル・コア・カリキュラムを参考にシナリオの作成をした。シナリオストーリーとして、また学習教材としての内容的妥当性を検証し、洗練した。看護学生を対象に、開発した教材を用いたオンライン授業を行い、主観的、客観的に学習効果があり、段階的に事例アセスメントや支援方法の学びを深化させられる教材であることを検証した。開発教材については、研究室ウェブサイトから、使用上の同意の得られた人に配信する仕組みを作った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、地域包括ケアの中でも当事者主体の社会資源の創出に着目し、学習する学生が、本人・家族・地域の力が社会資源にもなる可能性に気づき、また、創造的に地域共生社会の仕組みづくりを考えられるようなシナリオ学習教材を開発した。当事者主体の地域包括ケアを効果的に学修できる教材開発ができたと言える。現状において、看護学教育モデル・コア・カリキュラムで地域包括ケアに関わる学修目標が示されたが、先行研究を見ても、地域包括ケアを展開する際に不可欠となる考え方や技術を教育するための方略や評価は示されておらず、本研究は、当事者主体の地域包括ケアを効果的に学修するための教育手法の開発モデルとしての意義もある。

研究成果の概要（英文）：Toward the construction of a community based integrated care system, we focused on nursing competency to develop social resources by the patient initiatives, and developed scenario learning materials for nursing students. After clarifying the nursing competency, we developed a scenario with reference to the nursing education model core curriculum. We verified the content validity as a scenario story and as a learning material. We had online class using the scenario learning materials for nursing students, and verified that the learning materials had a subjective and objective learning effect and could deepen the learning of case assessment and support methods in stages. Regarding the development learning materials, we made a laboratory website to distribute the materials to those who have consented to use them.

研究分野：地域看護学・公衆衛生看護学

キーワード：シナリオ学習教材 地域包括ケア 当事者 看護実践能力 社会資源

1. 研究開始当初の背景

最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステム構築が進められている(厚生労働省)。平成27年9月には、この包括的な支援の考え方を全世代・全対象に発展・拡大させていく新しい地域包括支援体制の確立の方向性が示された。このため、総合的な見立てとコーディネートを実施できる人材等の育成と教育が求められ、社会福祉士のあり方の検討や介護福祉士の養成促進等が提言されている。しかし、今後、看護職者の活動の場が、病院の枠を超え、介護施設や在宅も含めた地域へと広がるならば、全ての看護職者が地域包括ケアを担えるように実践能力の向上を図ることは重要な課題である。

この地域包括ケアを担う看護職者に必要な実践能力は、未だ明らかではない。しかし、2014年に日本地域看護学会は、地域看護学を「健康を支援する立場から地域で生活する人々のQOLの向上とそれらを支える公正で安全な地域社会の構築に寄与することを探究する学問である」と定義し、看護基礎教育課程における地域看護学教育の必要性を提言している¹⁾。さらに、現在、地域包括ケアを担う看護職者に必要な実践能力を見据え、地域看護学に特有の看護基礎教育(学士課程)における卒業時到達目標を検討しているところである。

これまで行政保健師が発展させてきた実践能力「システム構築」「地域マネジメント」に関しては、支援システムを構築・発展させる行政保健師のコンピテンシー・モデル²⁾や地域づくりにおいて保健師が開発・発展したマネジメント能力³⁾が明らかであり、これらを包含して、地域包括ケアを担う看護職者に必要な実践能力を精選することが可能である。

新たな時代の地域包括ケアにおいては、部門や施設の枠を超えた医療チームの連携強化や地域における資源を最大限に活用するコーディネータの役割も期待されており、それらの複雑なニーズに応えられる実践力を強化するには、シミュレーション教育により学習することが効果的と考える。シミュレーション教育は、世界的な医療安全への意識の高まりから、2000年以降、医療者の技術教育に取り入れられてきた。その背景には、医療者教育全般において、社会のニーズに応えられる実践力の強化、また学習者中心の教育の設計が中心的課題にあった。医学教育においては、カリキュラムの改革に合わせてシミュレーション教育の導入を急速に進展させており、国内外でシミュレーション教育に関する研究も近年増加している⁴⁾。

日本の看護学教育では、初学者が臨床で経験しながら学ぶ従来の教育方法には制約や限界があり、初学者が安心して学ぶことができ、患者の安全を守る点、また臨床実習をイメージした実践的な演習が展開できる点からシミュレーション教育への期待は大きく、看護基礎教育や新人看護職員を対象とした研修への導入されている⁵⁾。しかし、現在、開発されているものは、病院内での基本的看護技術の獲得を目指したものが中心⁵⁾であり、今後は多様な状況⁴⁾での、福祉や住民の視点も取り入れた地域ケアに根ざしたシミュレーション教育の開発が求められる。

2. 研究の目的

本研究の全体構想は、看護基礎教育(学士課程)および継続教育において、地域包括ケアに関わる実践能力向上を支援するために住民と協働した教育手法を開発・普及し、新時代の地域ケアを担うことのできる看護職者の育成に寄与することである。本研究の目的は、看護基礎教育の学習として(1)住民との協働によるシナリオ学習のテーマ抽出と学習目的・目標・内容等の明確化、(2)看護基礎教育(学士課程)における学習目標の明確化、(3)地域包括ケアに関わる看護実践能力向上を支援するシナリオ学習教材を開発し、普及することである。

ここでは、地域包括ケアを、地域における社会資源(公的サービスや地域の互助など)の活用・創出と定義した。

3. 研究の方法

教材は、シミュレーション教育^{1)、2)}の作成手順を参考に開発した。研究計画は3段階から構成した。

1) 研究1

家族を介護した経験者で、かつ社会資源の開発に至った経験をもつ人5名にインタビュー調査を行い、支援が必要であった場面を選択し、社会資源創出ニーズ、およびその対応に必要なと考える看護実践能力を明らかにし、シナリオ作成をした(Ver.1:シナリオのテーマ抽出、学習目的、学習目標、学習内容、学習課題の明確化)。

2) 研究2

研究1で作成した地域包括ケア(当事者主体の社会資源創出の支援)に関わる看護実践能力育成のためのシナリオについて、看護・福祉の地域包括ケア実践家および看護系大学・福祉系大学の教員で地域包括ケア(退院支援、在宅療養支援を含む)に関連する授業実績のある者に内容的に妥当であるか意見聴取をし、研究1で作成したシナリオを洗練した。調査方法は、地域包括ケア実践家にはシナリオ(Ver.1)に対して「日常の実践活動と照らして、看護実践能力をはっきりする場面として映像教材の場面・状況設定は妥当かどうか」、教員に対しては、「当事者主体の社

会資源創出の支援における看護実践能力、またその向上に資する学習目的、学習目標、学習内容、学習課題として妥当かどうか」についてインタビューガイドを用いたインタビュー調査(グループ・個人)を実施し、シナリオ(Ver2)に洗練した。インタビューはいずれも、1回60分程度であった。基本的属性は簡易なアンケート調査を実施した。基本属性の調査項目は、地域包括ケア実践家については、職種、所属施設の種別、年代、性別、経験年数、業務概要等であり、教員については、職位、専門領域、年代、教員経験年数、地域包括ケアに関連する授業の概略であった。分析方法は、地域包括ケア実践家による場面・状況設定については、テーマの場面別に得られた意見を記述し、整理した。教員による学習目標等については、筆記録を調査項目にそって整理しデータとして、内容の類似性により分類し、内容を表すコードを付けた。そして、これらの結果をもとにシナリオを洗練した。そして、シナリオに基づいて、住民にも住民役を演じてもらいシナリオ学習教材(DVD教材+授業計画書)を作成した。

3) 研究3

作成した学習教材を授業で用いて研究協力の得られた学生の学習状況及び教育効果を評価し、普及に向けて準備をした。対象者は、公衆衛生看護管理の演習科目授業を受講した3年生80名の内、本研究の協力の同意が得られた者であった。授業方法は、講義聴講と段階的進行のワーク(個人で映像視聴・課題実施後にグループで課題に取り組む)を実施し、グループ数は20(4人/1G)だった。GWはMicrosoft Teams上でチャットで意見交換し、GW結果はMoodle上にアップし、全受講生が閲覧し返信した。学生はワーク終了後にレポートと振り返り記録を作成。教員4名とTA3名がワークを見守り助言した。

調査方法は、学習状況の評価については、各グループ(G)Teams上のチャット数とMoodle上の返信数を調べた。また、振り返り記録から、課題のわかりにくさ(5件法と自由記載)、教員の助言による気づき、今回の授業経験(自由記載)の記載内容を転記した。分析方法は、チャット数と返信数はグループ別に平均値(最小値、最大値)を、5件法は割合を求めた。自由記載は、質問項目ごとに、文脈により文章を区分し記録単位とし、意味内容により分類し、抽象度を高めてカテゴリを生成した。

教育効果については、調査内容は、8つの授業目標(対象者と家族のアセスメントの実施意思決定支援の説明 主体性の発揮を促す支援の説明 社会資源の理解 社会資源のアセスメントの実施 看護の役割の説明 協働方法の模範的な実施 地域ケア体制の仕組みづくりの理解)達成状況、満足度、自信の程度(5件法)とその理由、活用できそうな内容、地域ケア会議の引き継ぎ際の模範的技術(以下模範的技術)(自由記載)等であった。分析方法として、授業目標の達成状況、満足度と自信は、平均点を示した。自由記載は、文脈により文章を分けて記録単位とし、文章の意味内容の類似性により分類、整理した。

【倫理的配慮】本研究の各段階で、研究者所属機関の倫理審査委員会により研究計画の承認を得た上で実施した。

4. 研究成果

1) 研究1

社会資源創出のニーズを明らかにした。社会資源のニーズは7カテゴリ見出され、「A. 認知症の人にとって心地よい時間と場の継続」「B. 認知症初期の対応方法と相談先の理解」「C. 認知症の行動・心理症状への対応方法の理解」「D. 介護ストレスを抱え込まない」「E. 介護経験の振り返りと意味づけ」「F. 近隣に限らず地域の中で集い支え合える場づくり」「G. 社会資源の運営方法の具体的理解と行動」であった。

また、この社会資源創出ニーズに関わる看護実践能力は、9カテゴリが見出され、「本人と家族の意思を尊重した支援ができる」「本人と家族の地域での暮らしを地域社会の文化をふまえて理解できる」「本人のアセスメントをして、本人・介護者の状態にあわせた情報提供をし、適切な資源につなぐことができる」「介護者の健康維持のための支援ができる」「介護者のピアサポートの必要性を理解できる」「同じ介護者のために力を発揮できるように介護者自身の経験や強みを生かすことができる」「介護者の社会資源創出の意欲を支持し、必要な情報提供をしたり、場につないだりできる」「直面した個別の問題から、地域に社会資源創出のニーズがあることを推察できる」社会資源の創出に関する知識や経験のある人とネットワークを築き、協働して推進できる」であった。

上記をふまえて、シナリオ(テーマ、学習目的、学習目標、学習内容、学習課題)を作成した。

研究2)シナリオの内容妥当性の評価

意見聴取の結果を踏まえて修正したシナリオ(看護実践能力と学習目的)は下記の表の通りであった。

表 社会資源創出に関する看護実践能力と学習目的

項目	内容（下線が修正部分）
看護実践能力	<p>本人と家族の意思を尊重した支援ができる</p> <p>本人と家族の地域での暮らしを地域社会の文化をふまえて理解できる</p> <p>本人と家族を身体的、精神的、社会的側面からアセスメントができる</p> <p>本人と家族が暮らす地域が持つ強みや課題をアセスメントできる</p> <p>必要に応じて、本人・家族の状態にあわせた情報提供をし、適切な資源につなぐことができる</p> <p>本人、家族の健康維持のための支援ができる</p> <p>介護者同士のピアサポートの必要性を理解できる</p> <p>同じ介護者のために力を発揮できるように介護者自身の経験や強みを生かすことができる</p> <p>介護者の社会資源創出の意欲を支持し、必要な情報提供をしたり、場につないだりできる</p> <p>直面した個別の問題から、地域に社会資源創出のニーズがあることを推察できる</p> <p>社会資源の創出に関する知識や経験のある人とのネットワークを活用し、キーパーソンとなる人々と協働して推進できる</p>
学習目的	<p>・地域で暮らす人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようにするために、多様な専門職及び地域の人々と連携・協働し、看護の役割を發揮する能力を身につける</p>

表 介護資源創出として取り上げる場面内容とテーマ

場面	場面内容	テーマ
1	認知症初期の症状により、本人（母）も家族（父、娘）も戸惑い、葛藤・対立が起きる場面	認知症の初期の対応と相談先
2	別居の娘は両親を気にかけて、頻回に実家を訪ねるようになった。職場の人に話すことはためらわれ、近所（民生委員）とも挨拶程度で「相談できない」場面	認知症をもつ人の家族の状況
3	本人の認知症が進み、家族が目を見送る隙に、作品を作り外に出たいき、家族が探しまわった結果、相談していた民生委員からの連絡で見つかった場面	自分らしさを保てる地域
4	キャッシュカードを繰り返し紛失し、認知症サポーター養成講座を受けていた郵便局から地域包括支援センターに連絡が入り、住民も含めた支援関係者による地域ケア会議が開催された場面	多様な専門職や地域住民との連携・協働
5	母はグループホームに入り、娘が3年間の介護経験を経て、学生時代からの友人との話から、ケアラズカフェを始めようとする場面	介護経験の振り返りと意味づけ
6	娘がケアラズカフェを開始した。様子を見に来て欲しいと連絡があり、ケアマネジャーが出向く場面	地域の中で支え合える場づくり

加えて、各テーマのシナリオ（学習目標、学習内容と学習課題）が修正された（省略）。

これらの結果から、学習教材を洗練する方向性として、以下の2点が考察できた。1点目は、学修者がより積極的、能動的に学べるよう設定することである。事前の自己学習による知識の獲得、学習目標として「理解できること」の内容を具体的に明示、正しい回答を見出す、活用するだけでなく、創造的に考え、表現することが修得できるようにすること、学修者も生活者として、我がごととして考えさせる工夫が大事である。2点目は、当事者主体の社会資源創出について、深く学べるよう設定をすることである。具体的には、本人・家族・地域の力が社会資源にもなる可能性に気付けるようにすること、本人・家族の行為の背景や意味、それが及ぼす影響を考えられるようにすること、社会資源があることの意味を考えられるようにすることである。そして、社会資源の創出にとどまらず地域共生社会の仕組みづくりを継続性の観点からも考えられるようにすることが大事であると考えた。

3) 社会資源の創出力向上に資する授業とその評価

新型コロナウイルス感染拡大により、対面での調査や授業ができなくなった。当初の計画を変更し、オンライン授業に適應できるよう修正した。そして、当事者主体の社会資源創出に係る看護実践能力強化を目指し、筆者らが作成したシナリオ映像教材を用いて、具体的理解の促し、段

階的進行と学習課題焦点化、個人/グループワーク（GW）の組合わせ、複数回助言による気づきの促しを含むオンライン授業を実施した。研究3では、シナリオ映像教材を用いたオンライン授業の学生の学習状況と教育効果を評価し、効果的な授業方法を検討した。

分析対象は79名の記録であった。

1) 学習状況

チャット数は平均349.1(71-1249)。返信数は平均14.5(12-17)。わかりにくさは「ない・ほぼない」が68.3%。フィードバックによる気づきは、「グループワークで検討できている点課題がある点が明らかになった」「学習課題の検討において不足していた視点に気がついた」「学習課題を達成する上で重要となる考え方がわかった」「学習を深めるべき点に気づくことができた」。わかりにくさは「teamsとMoodleの併用の複雑さ」「課題の設定意図が不明瞭」「事例の情報不足」などであった。授業経験は「映像の反復視聴によるアセスメント能力の学びの深まり」「映像を通じた具体的なイメージ化による事例の現実味や理解の深まり」「段階的な映像場面の検討を通じた支援プロセスの学びの深まり」「グループワークや他グループの討議結果の共有による地域共生社会や社会資源の活用と創出に関する学びの深まり」「非対面形式の演習による困難や戸惑い」助言による気づきは、「GWで検討できている点、課題がある点がわかった」「学習を深めるべき点に気づけた」などであった。

このように、「映像の反復視聴による事例のアセスメントに関する学びの深まり」や「段階的な映像場面の検討を通じた支援プロセスの学びの深まり」「グループワークや他グループの討議結果の共有による地域共生社会や社会資源の活用と創出に関する学びの深まり」など、学生は段階的に事例のアセスメントや支援方法、社会資源の創出の学びを深化させていると考えられ、本映像教材のオンライン授業での活用は社会資源の活用や創出に関する学習に有用と考えられた。また、「グループワークで検討できている点、課題がある点がわかった」「学習を深めるべき点に気づくことができた」など、学生同士の相互作用や教員からのフィードバックにより、自己学習を導く気づきが得られていると評価した。しかし、「非対面形式の演習に対する困難や戸惑い」など演習方法の課題があった。これらより、学習目標の達成に有用な学習課題の設定、同期型のGW、討議結果の学生間の共有方法及び学習目標の達成に向けての教員からのフィードバックもあわせて重要と考えた。

2) 教育効果

授業目標の達成状況の平均点は、一例として目標では3.8点、満足度の平均点は4.4点、活用の自信の平均値は、4.2点であった。

満足の理由として、「事例を通してこれまでの講義で学んできた地域における看護マネジメントとそれに関わる社会資源について理解を深めることが出来た」等が挙げられた。

活用できそうな内容は、<地域における多職種との連携と具体的な方法>等の5カテゴリに分類された。模擬的技術には、三つの場面があり、<地域ケア会議への住民参画の促進>等の9カテゴリに分類された。

このように、開発したシナリオ映像学習教材を用いた授業に対する学生の学びから、理解できることや説明できるだけでなく、模擬的に実施できるという達成目標に対し、地域ケア会議の具体的な内容が示された。このことから、学生の主観のみではなく客観的にも学習の効果が出ていると考えられた。そして、シナリオ映像教材を用いたセクション毎の進行は、段階的に事例のアセスメントや支援方法の学びを深化させること、グループワークによる意見交換による学習を深めるべき点への気づきになっていると考えられた。非対面形式で文字だけの意見交換は限界があり、同時双方向型オンライン形式にする必要がある。教員は課題ごとにグループで意見交換ができていないか、また、進行のタイミングをはかって検討できている点・できていない点を指摘する必要があると考えた。

開発したシナリオ映像学習教材については、普及に向けて研究室のホームページを構築し、次の条件を満たす場合、つまり、学生等受講者の手元に、映像がダウンロードされて残らない。

学生等教育目的の受講者以外の者が視聴することはない場合には、映像教材を閲覧することができる。そして、閲覧を希望の方は、問い合わせフォームから、必要な事項を記入し送信してもらい、別途、記載したメールアドレスに、閲覧のためのID、パスワードを送り、オンライン学習システムが整備されている場合は、映像データをお送りすることも可能とした。

https://www.n.chiba-u.jp/community_public/movie.html

1) 平成24年～26年度日本地域看護学会地域看護学学術委員会：地域看護学の定義について、日本地域看護学会誌、Vol.17No.2,2014

2) 杉田由加里：支援システムを構築・発展させる行政保健師のコンピテンシー・モデルの開発、日本地域看護学会誌、13(2)、77-85、2011

3) 両羽美穂子：地域づくりにおける保健師のマネジメント能力の開発・発展過程：研究者と実践者の協働的アプローチより、千葉看護学会誌16(1)、45-52、2010。

4) 阿部幸恵：医療におけるシミュレーション教育、日集中医誌、23,13-20、2016

5) 阿部幸恵編著：臨床実践力を育てる！看護のためのシミュレーション教育、医学書院、2015

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 石丸 美奈, 小館 尚文	4. 巻 41
2. 論文標題 アイルランド共和国の包括ケアと保健師の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉大学大学院看護学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 83,91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 石丸 美奈	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 協働が生み出す知 - 看護学の広まりと深まり -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉看護学会会誌	6. 最初と最後の頁 107,109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 石丸 美奈, 鈴木 悟子, 坂井 文乃, 石橋 みゆき, 辻村 真由子, 諏訪 さゆり, 飯野 理恵, 宮崎 美砂子
2. 発表標題 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成 シナリオの内容的妥当性の検討
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会講演集 39回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石丸美奈, 坂井文乃, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 宮崎美砂子, 飯野理恵, 諏訪さゆり
2. 発表標題 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成 看護実践能力向上を目指して
3. 学会等名 日本地域看護学会学術集会講演集 第22回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishimaru, M., Iwase, S.
2. 発表標題 Key characteristics of social resources related to health and welfare developed in the community: Scoping review
3. 学会等名 Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石丸美奈, 鈴木悟子, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵, 石橋みゆき, 宮崎美砂子
2. 発表標題 当事者主体の地域包括ケアを学修するためのシナリオを用いた教育手法の可能性 (ワークショップ)
3. 学会等名 日本地域看護学会学術集会講演集 第 23 回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石丸美奈, 宮崎美砂子, 鈴木悟子, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵, 石橋みゆき
2. 発表標題 当事者による社会資源創出を支援する看護実践能力—看護学生を対象とした映像学習教材開発に向けて—
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会講演集 38回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木悟子, 石丸美奈, 坂井文乃, 宮崎美砂子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵
2. 発表標題 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成 - 状況設定の内容的妥当性の検討 -
3. 学会等名 日本地域看護学会学術集会講演集 第22回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植村直子、石丸美奈、宮崎美砂子、飯野理恵、鈴木悟子、辻村真由子、諏訪さゆり、石橋みゆき
2. 発表標題 社会資源の活用と創出に関する在宅看護学、公衆衛生看護学、社会福祉学の教科書の記述内容の比較
3. 学会等名 日本地域看護学会第21回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石丸美奈、岩瀬靖子、鈴木悟子、佐藤太一
2. 発表標題 社会資源の創出力向上に資するシナリオ映像教材を用いたオンライン授業とその評価1 - 学習状況に着目して -
3. 学会等名 日本地域看護学会学術集会講演集 第24回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木悟子、石丸美奈、佐藤太一、岩瀬靖子
2. 発表標題 社会資源の創出力向上に資するシナリオ映像教材を用いたオンライン授業とその評価2 - 教育効果に着目して -
3. 学会等名 日本地域看護学会学術集会講演集 第24回
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 悟子 (Suzuki Satoko) (10780512)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂井 文乃 (Sakai Ayano) (70835321)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501)	
研究分担者	石橋 みゆき (Ishibashi Miyuki) (40375853)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	辻村 真由子 (Tsujiura Mayuko) (30514252)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	諏訪 さゆり (Suwa Sayuri) (30262182)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	
研究分担者	飯野 理恵 (Iino Rie) (40513958)	千葉大学・大学院看護学研究科・講師 (12501)	
研究分担者	宮崎 美砂子 (Miyazaki Misako) (80239392)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

アイルランド	アイルランド国立大学ダブリン校			
--------	-----------------	--	--	--